

寛樹⁵⁾, 北野智一⁴⁾, 岡野 祥²⁾, 御供田睦代⁸⁾, 高野 愛⁵⁾, 矢野泰弘¹⁾, 及川陽三郎⁹⁾, 本田俊郎¹⁰⁾, 岩崎博道¹⁾, 平良セツ子¹¹⁾

○台湾系ツツガムシ病をみた宮古列島, そこで確認したデリーツツガムシの浸淫と消長.

第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会 (2010 年 11 月 5 日 岡山県倉敷市)

福井大学医学部¹⁾, 沖縄県衛生環境研究所²⁾, 大原総合病院附属大原研究所³⁾, 宮崎県衛生環境研究所⁴⁾, 国立感染症研究所⁵⁾, 愛知医科大学⁶⁾, 埼玉県川越高校⁷⁾, 鹿児島県環境保健センター⁸⁾, 金沢医科大学医学部⁹⁾, 鹿児島県立大島病院¹⁰⁾, 沖縄県宮古福祉保健所¹¹⁾

南西諸島の西部で緯度的に台湾と同位の宮古列島において, 2008 年 6 月にツツガムシ病が確認された. 同諸島で初の原発例であったため, その感染環調査を 2008 年秋から冬そして 6 月に計 4 回にわたり宮古島本島内の諸所で行ったが, ツツガムシ個体はむろん鼠から病原 *Orientia* 遺伝子すら検出できずにいた. ところが, 2010 年 6 月に 2 例目が見出されたため, 患者の主たる行動地域として同島最北部の池間島 (近年, 長大橋で連結) に焦点を当てて 7 月に調査したところ, 家鼠系の繁殖に伴う夥しいデリーツツガムシの浸淫を見て, その鼠類の脾臓から患者感染型と同じ台湾系菌型を含む遺伝的多形性の *Orientia* 遺伝子を PCR で検出, さらにマウス継代にて生きた菌株分離にも成功した. なお, 皮疹を起因するナンヨウツツガムシも見出された. 現在, ムシ自体からの PCR は陰性で菌分離も試行中であるが, デリーツツガムシの季節的発消長などを含めた調査は 8 月以降も継続しており, 今回はこれら経緯の概況を紹介した上で, 本地域における本病の地理病理学的な意味を考察する.

・山本正悟¹⁾, 北野智一¹⁾, 三浦美穂¹⁾, 安藤秀二²⁾

○宮崎県の日本紅斑熱発生におけるイノシシの役割.

第 65 回日本衛生動物学会西日本支部大会 (2010 年 11 月 5 日 岡山県倉敷市)

宮崎県衛生環境研究所¹⁾, 国立感染症研究所²⁾

日本紅斑熱の発生にシカやイノシシの生息状況

が関与しているという可能性が, 特に患者数の増加している地域を中心に, 推定されている. そこで, 宮崎県の主な発生地である県南東部の猟友会に依頼し, 2009 年 11 月から 2010 年 2 月にかけて捕獲されたイノシシ血液と脾臓の提供を受け, *Rickettsia japonica* (*Rj*) に対する抗体の保有状況と *Rj* の保有状況を調査した. 抗体は, *Rj* (YH 株) を抗原とし, FITC 標識抗豚 IgG 抗体を用いた間接蛍光抗体法で測定した. また, 血液と脾臓から, それぞれ市販のキット (DNeasy Blood & Tissue kit, QIAGEN) を用いて DNA を抽出し, 花岡らの TaqMan-MGB probe リアルタイム PCR 法により *Rj* の検出を試みた. その結果, 83 匹中 28 匹 (約 34%) のイノシシで 1:40 以上の抗体が検出された. 抗体価は 1:40 が 6 例, 1:80 が 12 例, 1:160 が 5 例, 1:320 が 3 例, 1:1280 が 1 例であった. 一方, 98 匹の血液 (主として血餅) 及び 97 匹の脾臓からは *Rj* は検出されなかった.

以上の結果から, 宮崎県の南部地域に生息するイノシシの約 1/3 は紅斑熱群のリケッチアに感染した経験があるが, 日本紅斑熱の病原体である *Rj* の野鼠への供給源としての役割は低く, むしろ *Rj* を保有する有毒ダニの機械的な拡散に関与していると考えられた.

・山本正悟¹⁾, 北野智一¹⁾, 三浦美穂¹⁾, 大橋典男²⁾, 川森文彦²⁾, 高娃²⁾, 呉東興²⁾, 安藤秀二³⁾, 岸本壽男⁴⁾

○日本紅斑熱発生におけるイノシシの役割 — 宮崎県の場合 —

第 3 回日本リケッチア症臨床研究会・第 17 回リケッチア研究会合同研究発表会 (2011 年 1 月 15-16 日 滋賀県大津市)

宮崎県衛生環境研究所¹⁾, 静岡県立大学²⁾, 国立感染症研究所³⁾, 岡山県環境保健センター⁴⁾

近年, 九州地域でも日本紅斑熱の報告数が増加し, 新たな地域での発生も報告されている. この様な地域におけるベクターや保有動物の調査に際して, 地域の住民から本疾患の発生にシカやイノシシが関与している可能性を指摘されることが多い. そこで, 宮崎県の日本紅斑熱の発生地である宮崎県南東部の 5 地区および発生の確認されていない県北部の 1 地区の計 6 地区の猟友会から, 猟